

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本を身に付け、自己を表現できる児童の育成  
(国語・算数の授業改善・授業力の向上)
- ②主体的に学ぼうとする児童の育成  
(家庭学習の質の向上・学校の教育活動の主体的な取組の発展)

栄喰学校  
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長:原 清二 教頭:喜多 将記
富田 真知子	研修主任:尾崎 啓明
	特別支援教育コーディネーター:米口 尋世
	主幹教諭:尾崎 啓明

校長

原 清二

印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識や技能が身につけている児童が多い。 ○全体的に課題に対してまじめに取り組み、根気強くやり遂げることができる。 ●学年相応の語彙の習得などの要因により、長い文章を正確に読み取ることに課題がある。 ●身につけた知識を関連づけたり、活用したりすることに課題がある。	・既習の基礎的・基本的な知識及び技能を身につけ、他の学習の場面や身近な生活に活用することができる。 ・語彙を増やし、自分の表現の中にかかすことができる。 ・文章や問いを正確に読み取ることができる。	・全学年を見直し、既習の知識や技能の定着に向け、ICT(キュビナ)を活用し、個別最適化された学習をすすめる。 ・教科書や新聞等で、分からない言葉が出てきたときに辞書等を使用し、調べる機会を設定する。 ・何が書かれているかを捉えさせるために、教科書にアンダーラインを入れさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを表現したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができ、自ら考えようとする態度が育ちつつある。 ●自身の考えの根拠を表現し、説明することに苦手意識を感じている児童がいる。 ●自分に必要な情報を取り出したり、複数の情報を関連づけて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。 ●読書の質や量に個人差が大きく、読解力や表現力が十分に育っていない児童もいる。	・課題を解決するために必要な情報を収集選択し、自分なりの方法で解決し、言語活動を通して深め合うことができる。 ・根拠を明らかにしながら、自分の思いや考えを説明することができる。 ・図書館や図書室等を活用し、意欲的に読書をし、様々な種類の本を読むことができる。	・ペア学習やグループ学習、「キャッチボールタイム」の機会を設定し、ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・教師の問い返しを大切に、考えさせる発問の工夫をする。 ・自分の考えを理由や根拠をもとに話したり、書いたりする経験を低学年から積み上げていく。 ・四季や社会の動向に即した本やおすすめの図書を読み聞かせたり、陳列したりする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中に、友達との対話に積極的に取り組むことができる児童が多い。 ○学級活動や代表委員会などで決めた事柄に、主体的に取り組む、楽しく活動している。 ○9割を超える児童が、毎日の宿題は必ずしている。 ●自主学習はできているが、自分の実態や目標に合っていない等の個人に課題が見える。 ●就寝時刻やゲーム・インターネットに費やす時間等、基本的な生活習慣の見直しが必要である。	・めあてをもって学習活動に主体的に取り組む、めあての振り返りまできちんとできる。 ・学習の状況を振り返り、自分に必要だと思われる内容を工夫して自主学習に取り組むことができる。 ・家庭で見直しをもって時間を使い、十分な学習時間や睡眠時間を確保することができる。	・毎時間めあてを持たせる工夫をし、振り返りをする習慣をつける。 ・「家庭学習の手引き」「自主学習の実践例」を配付し、活用させる。また、ICT活用(キュビナ)で個別最適化された学習をすすめる。 ・基本的な生活習慣チェックを定期的(学期に1回1週間)に行う。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

